

真庭なりわい塾の目指すもの

地域とは何かー集落の歩き方

真庭なりわい塾長

澁澤 寿一

(2016/5)



お爺さん・お婆さん
70代以上

戦前生まれ

お父さん・お母さん
60代～30代

高度経済成長期
～バブル期

1960(S35)～1965(S40)

高校生・大学生
10代後半から20代

バブル以降

農村中心(生きる=働く)

自給自足

薪や炭

体を使って働く

歩く・馬や牛

伝統的な知恵や技

自然の厳しさ、豊かさ



都会中心(お金の社会)

冷凍食品・レトルト

石油・ガス・原子力

電化製品・パソコン

自動車・新幹線

情報化社会

公害問題・地球温暖化

現代社会の問題

農山村の問題

- ・過疎化
- ・高齢化・少子化
- ・都市との所得格差
- ・教育環境
- ・医療
- ・働く場
- ・水と食料の自給
- ・バイオマス・水力・風力・太陽

都市(お金の世界)の問題

- ・空洞化(巨大団地)
- ・退職高齢者の役割・居場所
- ・食の安全・安心(確保)
- ・ストレス・不安・落ちこぼれ
- ・健康
- ・若者の雇用(2極化)
- ・生存の基盤は海外依存
- ・エネルギーの海外依存



「何のために一生懸命生きるのか」

- (目指す姿)
- ・都市も、農山村も、人生も、何を求めるか？
 - ・新しいライフスタイル(価値観)の構築



撮影 武藤盈
昭和35年(1960)

高校生の不安

◆若い世代の不安 → **安心**できる「モデル」がない

- ・**明治**時代:「学歴」をつければ、出身地や出自に関係なく大企業や官庁に「**奉職**」
- ・**昭和(戦後)**:戦後復興、経済的キャッチアップのため、**製造業**へ人材を集中
(農山漁村から都市への人材移転)

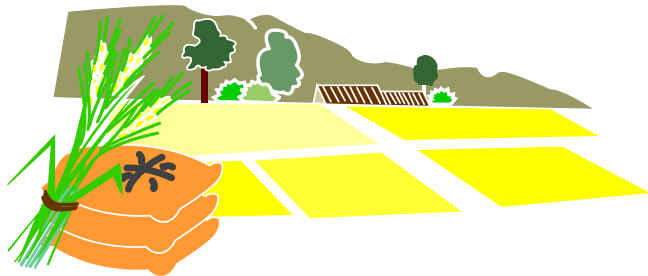


社会システムの崩壊(年金、社会保障、金融・経済、倒産、解雇)

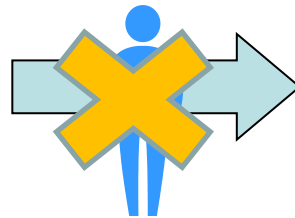
良い大学を出て良い勤め先に就職すれば一生安泰。
良い仕事を得るためには、都市に行かなければダメ。

年功序列、終身雇用

明治・昭和型社会の
人生モデルの崩壊
不安の時代の到来



地方(農山漁村)



双六的人生の消滅

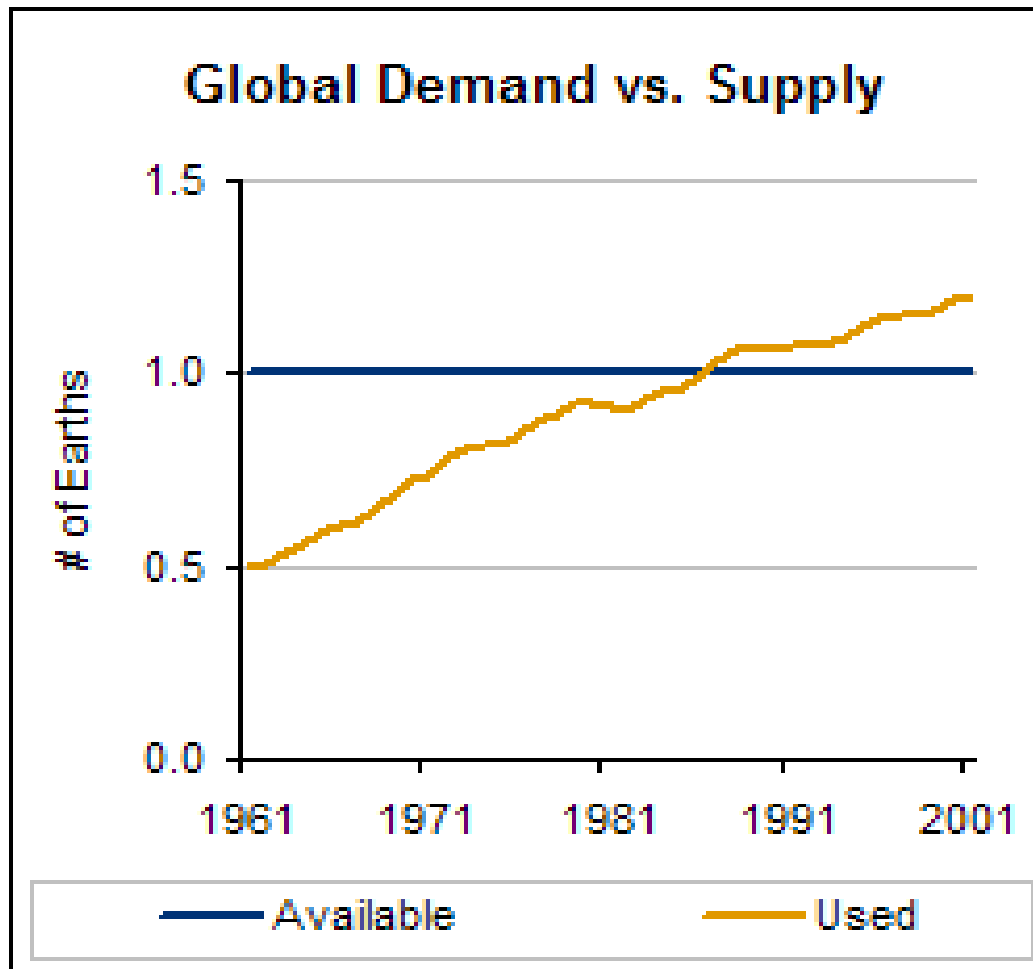


都市(地方都市)

エコロジカル・フットプリント

—地球の足形(自然の成長量をどれだけ

人間が使っているか)—



経済発展の限界

中国が一人当たり、アメリカと同量の**牛肉を消費**すると、
⇒餌として必要な穀物＝アメリカの総穀物収量と同等

中国が一人当たり、日本と同量の**水産物を消費**すると、
⇒増加量は、現在の世界の海洋からの総水揚げ量を上回る

中国が一人当たり、欧米、日本と同じ割合で**車を所有**すると、
⇒必要な石油8000万バレル/月 > 世界の総産油量6400万バレル/月

中国が一人当たり、アメリカと同じ**炭素を排出**すると、
⇒世界の炭素排出量は倍増

中国をインド、ロシア、ブラジルに換えても同じことが言える

1990年以降のグローバル経済

コミュニケーションの道具としての「**お金**」
世界中で通用する、**公平で共通の道具**



公平だが限度がない（**欲望の抑制が効かない**）
バーチャルな貨幣（株、為替差益、債券・・・）の増加
ウォール街経済（**貨幣が貨幣を生む仕組み**、リスクの証券化）
实体经济の70～100倍のバーチャルなマネー



地球は有限、70億の人口の生存を貨幣は担保できるか？
「**いのち**」を「**お金**」で保障できるか？

そもそも、**エコロジー**（自然）あつての、**エコノミー**（経済）

お金がすべてではない

◆ 暮らしにおける「経済」=「お金」だけの世界の拡がり

カール・ポランニー（ハンガリーの経済人類学者）

- ・人間の経済は、本来、社会関係の中に埋め込まれているはず（embedded）。
- ・「市場経済」の世界で、経済システムの中に社会が埋め込まれていると捉えるのはおかしい、と指摘（60年以上前に）。

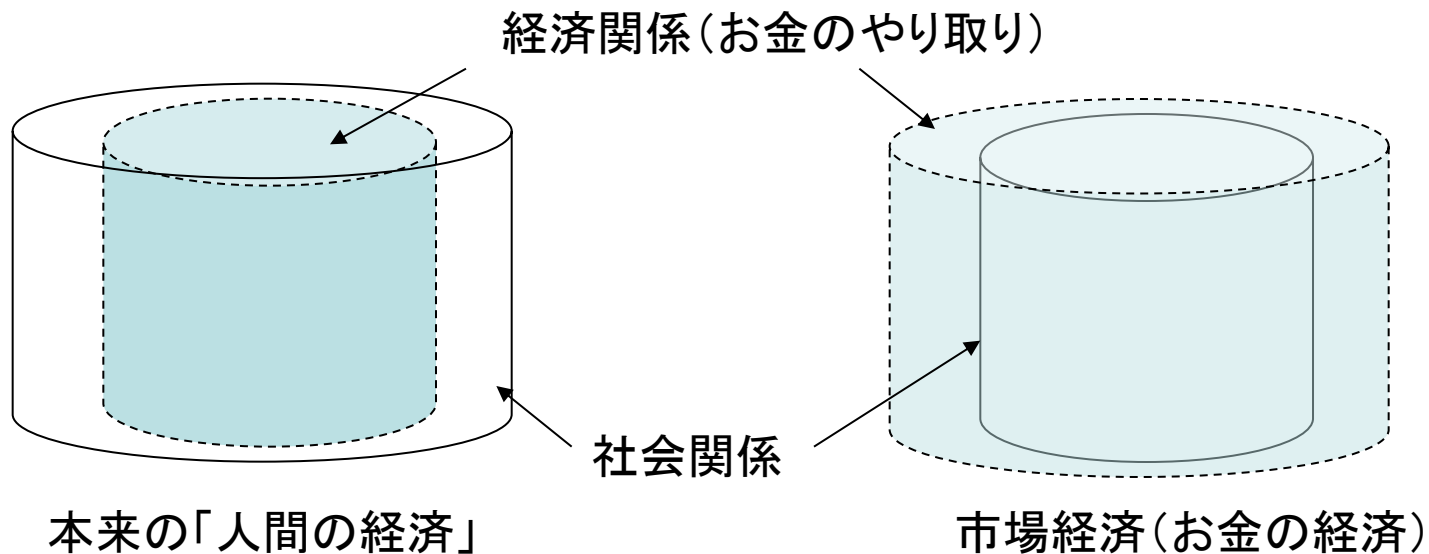
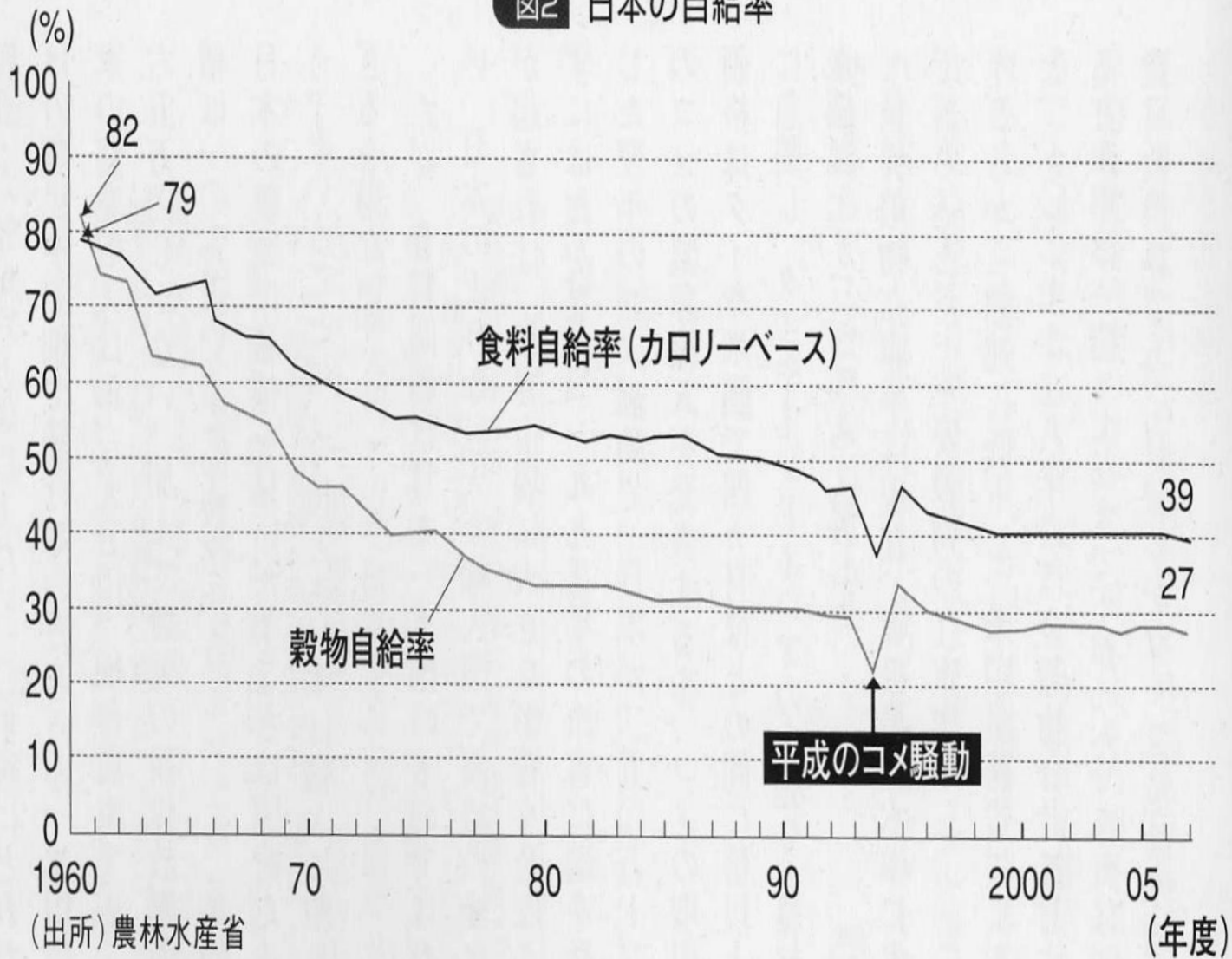
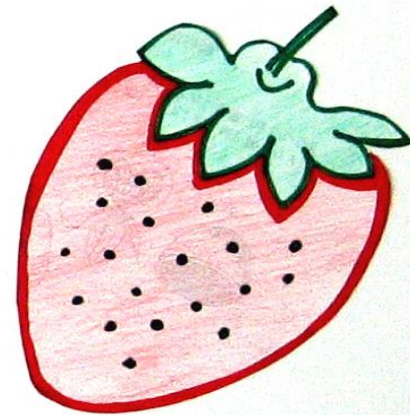
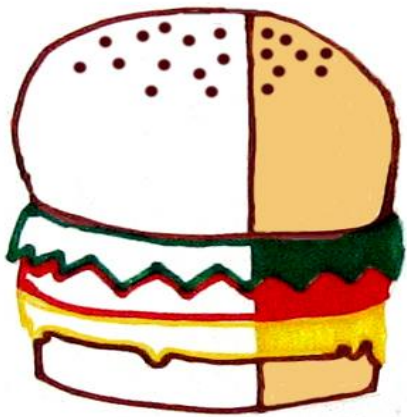
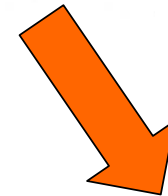
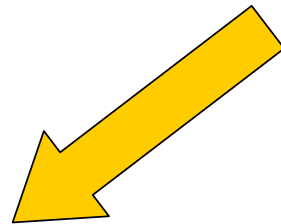
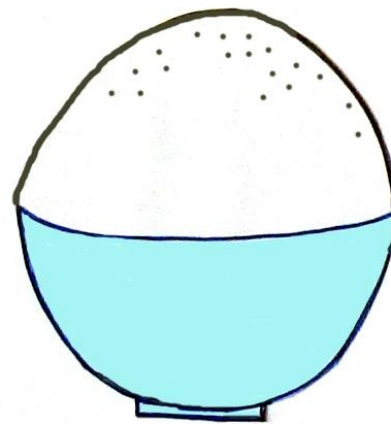


図2 日本の自給率



ご飯1膳の値段は？





環境の持続**不**可能性

と

社会の持続**不**可能性



雪国の暮らし

山の仕事

家の仕事

田畑の仕事

	雪の季節	雪のない季節
食	<p>豆腐・納豆作り</p> <p>漬物作り</p> <p>味噌作り</p> <p>どぶろく作り</p>	<p>山菜取り</p> <p>きのこ植付</p> <p>きのこ狩り</p> <p>畑</p> <p>漬物作り</p> <p>牛・肥料用の草刈</p> <p>米作り</p>
衣	<p>履物の加工</p> <p>ムシロ・笠製作</p> <p>かご製作</p>	<p>ワラ準備</p> <p>スゲ準備</p> <p>樹皮準備</p>
住	<p>杉伐採</p> <p>炭焼き</p>	<p>杉の下草刈り</p> <p>屋根葺き</p> <p>萱刈り</p>

食の暦

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
田		畦塗り	田植え	一番草	二番草 三番草	ヒエ取り	稲刈り 脱穀 もみすり 精米
畑		大豆・あずき・ささげ					漬物作り
		ジャガイモ					
		ナス・とうもろこし					
		ねぎ・大根					
山		山菜 こごみ・うど・しどけ ぜんまいみず	塩漬け		きのこ トビタケ クリモダシ ナメコ サワモタシ カヌカ		
	山菜 うるい いぬどうな						

草木塔

おおいなるいのち(神)に感謝する心



(お不動さん、庚申さん、馬頭観音、草木塔)

どの様に人は、
森をつくってきたか!?

(仕事と稼ぎ)

世代と世代をつなぐ

仕事・・・祭り、結い、山仕事

稼ぎ・・・家族を食わせる、山稼ぎ





雑貨屋

「ありがたさ」と「煩わしさ」の狭間

(**こころ**の立ち位置)

村の暮らし

「ありがたさ・温かさ・煩わしさ」

- ・人間の信頼
- ・相互扶助、隣保相助、
絆(きずな)
- ・村人は家族の延長
- ・強固なコミュニティー
- ・自然と一体な暮らし
- ・プライバシーより**共同体**



不便だが**温かい**社会

現代の暮らし

「快適さ・冷たさ・無関心」

- ・**個人**の世界
- ・行政サービスの完備
(お金を払えば)
- ・**システム**への過度の信頼
- ・隣の住人の顔も知らない
- ・自然と暮らしの乖離
- ・プライバシーの**尊重**



便利だが**冷たい**社会



関係性の再構築の必要性

(**人と人**、**人と自然**、**世代と世代**、**地方と都市**)

農山村と都市の共生モデル

都市の問題は、都市だけでは解決できない。

農山村の問題も、農山村振興策だけでは解決できない。

日本の問題も、グローバルマーケットだけでは・・・

⇒ 環境モデル + 生き方のモデル
(循環システムづくり) (新しい価値観づくり・人づくり)

「**未来の社会**」「**幸福**」「**生きがい**」

皆で考え、実践する。

「**真庭なりわい塾**」

幸せな地域社会とは何なのか

1. **有名**になること。TV・雑誌に取り上げられること。
2. 人がたくさん集まること。工場ができること。
3. お金がたくさん集まる。たくさん**儲かる**こと。

(一般的な、地方創生、地域活性化の目標)

4. 地域で皆が食べていける(生産・交換・贈与・連携・購入)
5. 子供たちが地元に戻ってくる。**若い世代**が住みつく。
6. 地域で生きる**誇り**を持てる。

(地域住民の視点では)

7. 地域の人を皆知っている。相互に**支え合う**。助け合う。
8. 暮らしを**つくる**、仕事がある。
9. 地域で**友達**がいる。集える。健康でいれて、移動が自由。
10. 老人になっても食事ができ、運動ができ、**見守られている**。

(地域福祉の視点、高齢者の視点)

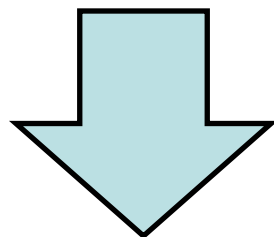
11. **農作業・山仕事**ができる(精神的、肉体的、最善の健康法)
12. 自分が人の**役に立っている**と思える(ex.産直)
13. 死ぬまでここで生きていきたいと思う。
14. 神々・祖霊・産土・・・と、いつも一緒と**感じられる**。

(個人の視点)

生活の質の向上とは

今までの 生活の質

- 所得の増大(生活は**買うもの**・石油文明)
- まちの拡大と発展(孤独)
- 病気の治癒

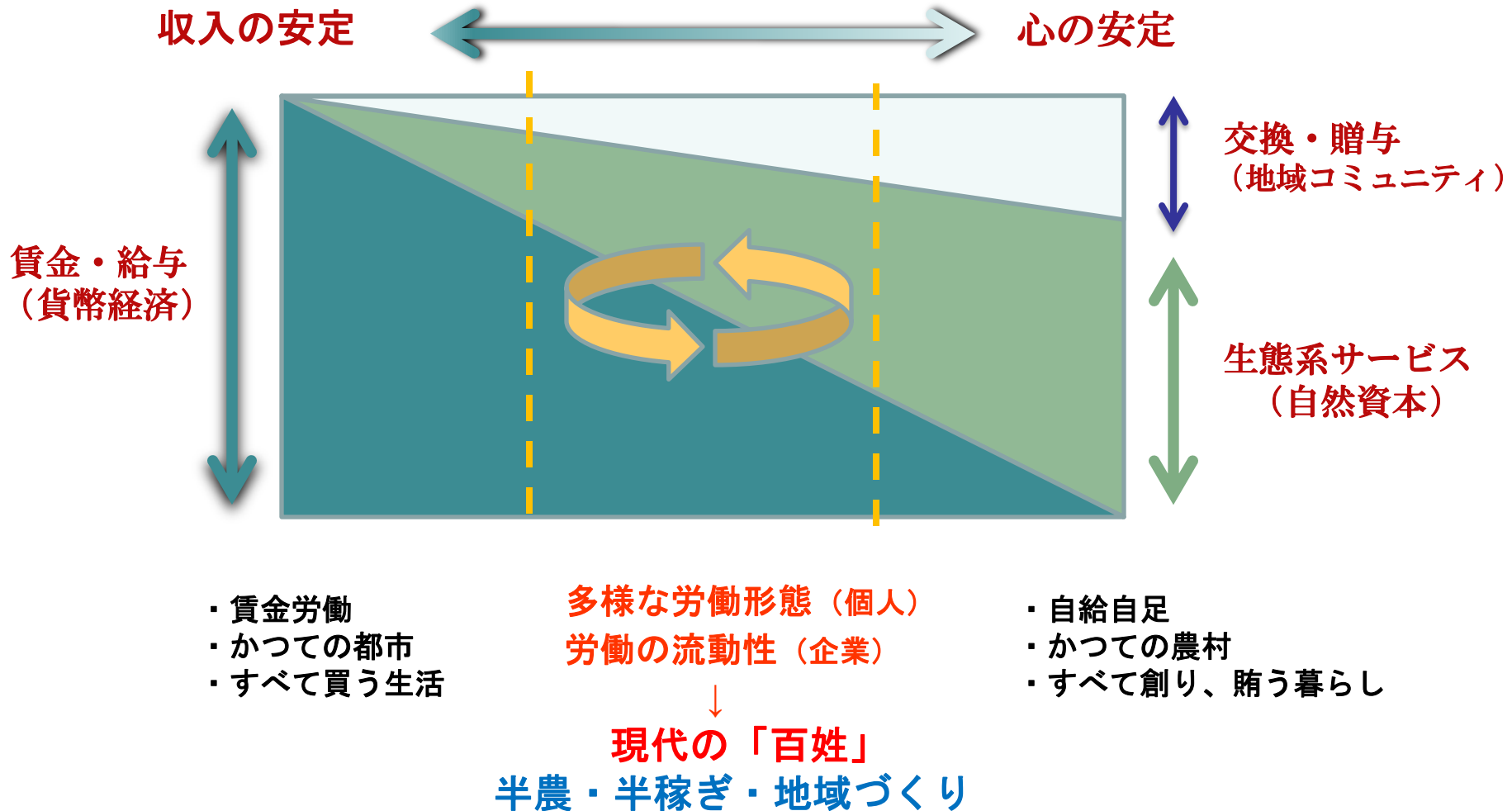


価値観の変化

これからの 生活の質

- 生きる実感をどのように体感するか
(生活は**つくるもの**・地域づくり)
- コミュニティの再生(群れにもどる自分)
- 死生観(生と死は同じ。人としての尊厳)

新しい働き方



一地域の人と集落を歩くー(地元学)



集落の成り立ちと
地域に入る心得(作法)を
地域に触れて学ぶ



1. 目的

中和地区のそれぞれの集落は、どのような自然条件の中で、
どのような社会の変化の中で、どのような知恵をもって、
それぞれの時代に暮らしをつくってきたのでしょうか。

時代は1960年以前、という設定。

燃料革命前、高度経済成長以前、

石油と農業機械に依存しない時代、

農業ではなく、**農的暮らし**の時代、

集落はどのような**資源**と**人**で成り立っていたか。

その延長に**現在**があり、**未来**を考えるヒントがある！

そんな地域の**風土**や**文化**、**生活**、**歴史**…

人々が今につないできたものを体感する。

2. 調べるもの

水(水源、水路、川、谷など)、

光(日照時間、陽射しなど)、

風(強さ、季節、風の道など)、

土(地形、地質、地味など)、

生き物(植物、動物、魚、猫、食害、利用、貯蔵など)

産業(日々の生業、稼ぎ、自家消費など)、

食べ物(種類、日常とハレの日、調理、素材など)、

家(種類、材、利用など)、

道具(種類、材、加工など)、

衣服(材料、機織りなど)、

薬(調達、自然素材など)、

神様(神棚、石仏、信仰、有り難いもの、祈り、祭りなど)・・・

古いもの、新しいもの、興味をもったもの、全部！

3. 心得

- **先入観を捨てて聞く**・・・とにかく地元の人のお話を聞いて、質問し、メモをとりましょう。
民俗学の知識や、自分の経験を押し付けないように。
- **名所、旧跡調べではありません**・・・生活の場に当たり前にあるもの、あったものを調べましょう。
- **対等な立場で聞く**・・・子供たちにも同じ目線で。
- **具体的な内容を聞く**・・・
「農業はどうですか」という一般的な質問ではなく、
「田植えはいつか」、「茶摘みはいつ頃からか」、
「この野菜は地元では何と呼ぶか」、「この草は何に使っているか」など、
具体的に聞いていきましょう。

4. まとめ作業


- 模造紙に集落ごと、**タイトルをつけて「地域マップ」**をまとめます。
フィールドワークで気づいたこと、集落の人々が大切に
して来たことを書き込み、また、撮影した写真を貼り付け、手書きのイラスト
なども加えて、仕上げていきます。
- 出来上がった「地域マップ」には**過去と現在**が混在します。
その中から10年後の**未来**も想像してください。
その集落の人々が10年後に、どんな生活を営んでいるか。
何を大切に思い、何を未来につなぐのか。
あなたはどのように関わられるのか、
地元の方も交えて、話し合えれば素敵です。
- 「地域マップ」は、各グループごとに、発表をしていただきます。

5. 最後に

- フィールドワークを通じて、参加する私たちは、地元の方にお世話になり、沢山のものをいただきます。
みなさん、それをどうしたら、少しでもお返しができるか、ぜひ考えてください。

一緒に未来を語り、長い友情をつくること、何度も訪ねること、共同作業に参加すること…いろいろありますね。

参加者にとっても、地元の方にとっても、この出会いが価値あるものとなりますように。

A misty mountain landscape with a green field in the foreground and a line of trees. The text is overlaid on the image.

自然は寂しい

けれど、人の手がかかると、

あたたかくなる。

そのあたたかなものを求めてあるいてみよう

宮本 常一